

地震工学会
津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会
第16回研究委員会 議事録(案)

1. 日 時：2015年9月10日(木) 10:00~12:10
2. 場 所：工学院大学新宿キャンパス 28階 第4会議室
3. 出席者：後藤, 山本(文責), 市古(H), 甲斐(H), 佐藤, 末松, 仲村, 久田, 三上(H)、村上(H)、山本(オブザーバー)
4. 資 料：
 - 資料 16-1 第16回研究委員会 議事次第
 - 資料 16-2 第15回研究委員会 議事録(案)
 - 資料 16-3 避難経路データの整理方針、中土佐町活動計画
 - 資料 16-4 「首都圏における地震・水害等による複合災害への対応に関する委員会」第7回議事録
 - 資料 16-5 欠番
 - 資料 16-6 国際交流WG活動報告
 - 資料 16-7 震災対策技術展(宮城)の報告
 - 資料 16-8 論文特集号
 - 資料 16-9 委員会報告書の作成、報告会の開催、JAEE年次大会
 - 資料 16-10 予算の執行状況
 - 資料 16-11 東日本大震災における「主体的な津波避難」に関する考察
5. 議事内容：
 - 5.1 議事録確認 [資料 16-2]
 - ・ 第15回研究委員会の議事録を確認した。
 - 5.2 各部会の報告
 - (1) 津波避難部会 [資料 16-3]
 - ・ 地震工学会のHPに調査データがアップロードされている。現在まで1件、アクセスがあった。
 - ・ 避難経路データの整理について、日本工営で9月中を目途に地図に書き込む作業を続けている。
 - ・ 地図への書き込みについては、土地勘がある方(例えば、石巻市の阿部さん)にチェックをしていただく必要があるのではないか。
 - ・ 地図からデータ入力を支援するソフトは整備済み。三上委員の学生アルバイトに入力をしていただく。
 - ・ 中土佐町の活動では、自主的に避難マップを作成して、津波に備える方向を目指したい。
 - ・ 中土佐町の活動では、委員会が終了するまでの半年間で何ができるか、委員会後のフォローアップをどのようにするかを考えなければならない。
 - ・ フォローアップは重要だが、地域で継続的に活動は行われると思う。学会として、どのように関わろうと思っているのかが地域に正しく伝わるのが大切である。

- ・ 中土佐町の具体的な活動計画を早急に取りまとめる。

(2) 都市避難部会 [資料 16-4]

- ・ JAEE 年次大会 11/20 (金) 16:10-18:00 の横断セッションが決定した。津波避難の扱いについては、これから決定する。津波避難を含める場合には、協力してもらいたい。
- ・ 水防法が改正され、地下街で避難計画、避難訓練を実施することが義務付けられた。
- ・ 都市避難の特集号の進捗は遅れているが、今年度中には発刊する予定である。

(3) シミュレーション部会 [資料 16-7]

- ・ 震災対策技術展(宮城)は 50 名ほどが参加した。70%が地元自治体関係者、30%が民間であった。
- ・ アンケートでも概ね好評で、専門的な内容に興味のある方が多かった。
- ・ 2016.2 に横浜でも講演を考えている。
- ・ V&V の公募を 9 月に行い、参加者には 11 月までにシミュレーション結果の提出をしてもらう。来年早々には、取りまとめをする予定である。
- ・ 声かけをして、参加者を増やしたい。

(4) 国際部会 [資料 16-6]

- ・ 中須委員がタイへ異動したことを機会にタイとの連携をすすめている。Anat Ruangrassamee 先生 (タイ・チュラコーン大学) と意見交換を行った。
- ・ 16WCEE (2017 年 1 月チリ・サンチアゴ) で津波災害リスクマネジメントの特別テーマセッションについては、ロドリゴ・シエンフエゴ先生がコーディネータとなり、提案し採択された。アブストメ切が 9/15 であるが、皆さんに投稿してもらいたい。

5.3 論文集特集号 [資料 16-8]

- ・ A05 の論文が遅れていたが、通常号となったため、10 月発刊の予定である。

5.4 報告会の開催、委員会報告書の作成、JAEE 年次大会 [資料 16-9]

- ・ 報告会を土木学会と共同で行うとの提案もあるが、当面年度内の JAEE 単独の開催を準備し、調整がつくようであれば共同開催とする。
- ・ 報告書の項目(案)に基づいて、各部会で目次を確定する。時間が限られているため、スケジュールを定め、計画的に作成を進める。

5.5 予算の執行状況 [資料 16-10]

- ・ 9 月末に震災対策技術展(宮城)の交通費 6.9 万円が入金予定。
- ・ 今後、報告書と報告会の費用、中土佐町への旅費への支出が予定されている。

5.2 講演 東日本大震災における「主体的な津波避難」に関する考察

(市古 幹事) [資料 16-11]

- ・ 昨年 12 月の地震工学シンポジウムの原稿から、査読意見を反映して一部修正している。「津波文化」、「災害文化」は、学術用語として一般化していないため、使わないようにしている。政府の調査結果についても、前段で触れている。
- ・ 山田町と石巻市の調査結果を対させ、「地震のゆれで津波襲来の危険性を自ら判断できる」ことが「自然環境」と「地域社会」にどのように関係しているかを整理した。
- ・ 石巻市のデータは聞き取り調査のものであるが、ポスティングの結果と異なるものもある。周囲への声かけについて山田のヒヤリングと石巻のヒヤリングならびにポスティングのデータを比較すると、ヒヤリング同士を比べると山田の方が声かけ率は高いが、山田のヒヤリ

ングと石巻のポスティングの比較では石巻の方が高くなる。

- 「被災軽減の方策」の観点であるべき方向を見据えて論文をまとめることが大切ではないか。

以上